

## 戦後70年

### 秋田工業を巡る終戦前後

加賀谷 健治(昭和36年電気科卒)



#### 1. まえがき

私は2002年発行の会報KANASAVOL10から編集に携わってきたが、これまでの掲載記事の中で終戦前後の事柄で十分理解できないままの3点がある。

- ・秋田市立商業学校との関わり
- ・秋田工業に5年も6年も在籍した理由
- ・秋田日満工業学校のこと

今年終戦70年にあたり、真相を解明し記録に留めることにした。

#### 2. 秋田市立商業学校との関わり

##### 1) 秋田での取材旅行

秋田商業と秋田工業の関わりに関しては、KANASAVol.18に当時の秋商東京雄水会会長和田武男氏の投稿記事が掲載されている。その中では昭和19年度に秋田市立商業学校が秋田市立工業学校に転換した。終戦に伴い昭和21年秋田市立商業学校が復活し、秋田市立工業学校が廃校になり全生徒が県立秋田工業に編入した、と記載されている。

一方、秋工百年史の「秋田県立秋田工業高等学校学科変遷図」では工業化学科が昭和20年4月1日秋田工業高校(学校の誤り)へ移管、と記されているが、移管時期に1年の違いがある。

この件に関し和田武男氏から、「真相究明」のため、秋田商業の歴史をよく知っている「武藤四郎氏」と秋田市立工業学校1回生の「伊藤義太郎氏」から当時の話を聞くために秋田に行くことにしたので、同行のお誘いを受けた。



和田武男氏、加賀谷

会報KANASAの原稿作成のため良い機会と思ひ平成27年3月26日と27日の2日にわたり秋田で共同調査した。

##### 2) 武藤四郎氏の説明

武藤四郎氏は元秋商教頭、北秋田市立合川高等学校長、生涯学習センター所長を歴任された方で、この度の説明のため資料を作成し、根拠となる参考資料も準備されており懇切丁寧な説明を受けた。



武藤四郎氏

##### 3) 伊藤義太郎氏の説明

伊藤義太郎氏は、昭和19年4月新設の秋田市立工業学校冶金科に入学し、翌年昭和20年4月県立秋田工業学校冶金科に編入した。ラグビー一部に入部し、第27回全国中学校ラグビー大会と第28回全国高校ラグビー大会で2回全国優勝した時にフォワードとして活躍した。昭和24年3月卒業後法務局に就職し、その後司法書士事務所を開設。



伊藤義太郎氏

伊藤氏から、昭和19年4月市立秋田工業に入学した当時は

生徒は3分に1位でほとんどの生徒は勤労働員で軍需工場に出ていた。

昭和20年4月には市立工業学校が廃校となり、採鉱科と冶金科は県立秋田工業学校に編入し、工業化学科は移管となった。

また、入学時には4年修学で卒業だったが、昭和22年の学制改革により5年で卒業と1年延長した。などをお聞きした。

また、参考資料としては廃校時の記念誌「冶金科・金属工業化・材料技術科六十九の歩み」を見せて頂き、終戦前後の状況を詳しく知ることができた。

#### 4) 秋田県立図書館で秋田県教育史を調査

終戦前後の教育関係の出来事を公文書で確認するため、秋田県立図書館を訪問した。秋田県教育委員会が編纂した「秋田県教育史 第1巻から8巻の全巻」に目を通し、戦中戦後の参考になる記録を調査した。

以上の調査の結果をまとめると次の通りである。

#### 5) まとめ

戦争の拡大によって軍需工場で働く多くの若者が戦地に送られ技術者が不足していた。一方、経済活動に国家の統制が加わるようになると、配給の分配が商業活動の主務とされ商業教育が軽視された。

昭和18年10月12日には「教育に関する戦時非常処置方策」によって、秋田商業学校は工業学校に転換させられることになった。

昭和19年に秋田市立商業学校は生徒募集を停止し、秋田市立工業学校が開校した。秋田市立工業学校は4年制で、国民学校初等科(小学6年)卒業を入学資格として、工業化学科・採鉱科・冶金科の3科各科40名でスタートした。この年、秋田商業学校の2年から5年生と新設の秋田市立工業学校1年生は同じ校舎で学んでいた。

同じ昭和19年、秋田市では工業学校を開校してみたものの、工業の専任教諭はおらず鉱専、県立工業、帝石等から囑託で依頼した。さらに、実習の設備費は予想外に多額を要し、そのうえ戦時下で資材の入手が非常に困難だった。このままでは、十分な工業教育を行うことができないので、県に委託した方が良く、ということになった。

秋田県では、新設する県立女子医学専門学校校舎を確保する必要があった。一方秋田市は、市立工業学校の運営に難渋していた。この2つの問題を一挙に解決するために、秋田県が市立工業学校の生徒を県立秋田工業学校に受け入れ、秋田市が市立工業学校の校舎を県立女子医学専門学校校舎として、秋田県に譲渡した。

昭和20年秋田市立工業学校は廃校となり、4月生徒は秋田県立工業学校の採鉱科・冶金科に編入された。また秋田工業学校になかった工業化学科は移管された。

なお、秋田市立商業学校の校長をはじめとする教員および在校生(3から5年生)は、秋田県立医学女子専門学校の片隅で借家住まいのみじめな生活を送った。

終戦後、昭和21年4月1日秋田市立商業学校は復活し、9月茨島の旧秋田日満工業学校の跡地に移転した。

県立女子医学専門学校は昭和22年4月失火により校舎が全焼し、10月学制改革による大学昇格の要請がかなわず廃校となり、生徒は散り散りに全国の大学医学部に編入した。